

## ベーシックの英文法

ベーシックの英文法は英作文を書くために簡易化されたものです。以下、簡単に概要を説明します。授業ではこの文法を、時間をかけて覚えてゆきます。ひと夏でマスターできるので、安心してください。

時間のない方は赤い文字だけお読みください。

### ① 英語と日本語の大きな違い。

英語と日本語の大きな違いの1つは、英語は文の中で言葉の置かれる位置が決まっている、という点です。

日本語では

<例文>

太郎はリンゴが好きだ。

リンゴが太郎は好きだ。

好きだ、太郎はリンゴが。

と3様に書いても文の意味は通じます。

しかし英語では

<例文>

Taro likes apples.

Apples Taro likes.

Likes Taro apples.

この3つの文のなかで、基本的には一番上のものしか意味が通じません(倒置されている例外的な文は考えない)。

つまり、文章における言葉の種類、役割を的確に判断して、それに応じ

て文の適当な位置に置く、という習慣を、英語習得に際して我々日本人はつける必要があるのです。学校で出題される並べ替え問題はこの習慣を身につけさせるためのものですが、そこに加えて1つ大切なことは、日本語の文における言葉の役割を適切に理解することです。生徒にはこの訓練も必要です。

## ② 主語と述語、修飾語と被修飾語

では、言葉の役割とはなんでしょうか。それは文における主語と述語、修飾語と被修飾語の関係のことです（もっと他にあるのですが、詳述になるのでここでは省略します）。これは、小学校4年生の国語で習う内容です。ですから、その年頃の子供なら理解することができます。

これに関連して、英語の基本的なルールである

英語はまず、主語から書いて次に述語を書く  
英語は、主語、述語から書き始める

という点を生徒にしっかりと習慣づけて行きます。

中には、主語とは「は」や「が」がつく言葉、と理解している生徒もいます。そういう生徒は

<例文>

カレーは好きだ。

という文章において、主語が「カレーは」とであると誤解しています。授業ではまず、こういった点を注意深く直してゆきます。文章における主語と述語の見分け方は日本語を英語に翻訳する基本なので、ここから丁寧に教えてゆきます。

加えて

修飾語と被修飾語はくっつけて書く

短い修飾語（1語の修飾語）は被修飾語の前  
長い修飾語（2語以上の修飾語）は被修飾語の後ろ

というルールも覚えてもらいます。

つまり

赤い リンゴ red apples

これは英語も日本語も語順は同じです。

しかし、

母が作った ケーキ

は英語では

ケーキ 母が作った the cake baked by my mother

という語順になります。

英語と日本語では、修飾語と被修飾語をくっつけて書くという点は同じなのですが（それでも日本語は離して書くことも可能ですが）、その並びの規則が異なります。この点を理解させて、日本語における修飾語と被修飾語の連結と、英語のそれとの違いをきちんと理解させてゆきます。

### ③ 品詞

英語では品詞を理解することは絶対です。しかし、ほとんどの生徒は品詞とは何か、ということを知りません。これは、例えば早稲田佐賀中学校の生徒でも同じことで、副詞とは何かという質問に答えることができる生徒はわずかです。

生徒が品詞を覚えてがらないのは、国語における品詞教育のためです。国文法において品詞の説明があまりにもわずらわしいために、英語の品詞も覚えてがらないのです。ただ、英語には国語ほどわずらわしい品詞理解が必要ありません。とはいえ、絶対に覚えなくてはならない4つの品詞があります。ベーシックではこれを絶対に覚えてもらいます。

- 名詞 物や人の名前  
動詞 動作を表す言葉 下 ( ) は使用の規則  
(1つの文に1つだけ述語の位置に使う)  
形容詞 名詞を修飾する言葉  
(be動詞の後ろに置く か 名詞にくっつけて使う)  
副詞 動詞を修飾する言葉  
(動詞にくっつけるか、文の先頭もしくは最後に置く)

上の品詞の定義は、なるべく簡単にしています。例えば、副詞は動詞、形容詞、副詞、文全体、節、句までをも修飾しますが、初めは「動詞を修飾する言葉」で構いません。また、カッコ内は各品詞を使うルールです。各品詞は基本的にカッコ内のシンプルなルールにしたがって使います。それ以外の使い方は、中学校の間はしません（有名私立高校の受験問題には少し例外が出題されます）。

英文における言葉は接続詞や前置詞などを除けば、ほぼ全て4つの品詞に分類できます。

例えば、

大きな 木

の「大きな」は日本語では連体詞ですが英語では形容詞です。

英語学習では、日本文において使われている言葉のほとんどを上記の4つの英語の品詞に分類できるようになることが、絶対に必要です。しかし、これは難しいことではありません。主語と述語、修飾語と被修飾語の関係が理解できていれば、2週間ほどでマスターできます。ある意味日本語の学習です。小学生にも可能な範囲です。そして、日本文に使用している言葉を英語に合わせた4つの品詞に置き換えられるようになったら、あとはそれぞれの品詞使用のルールに従って言葉を並べるだけで、ほぼ英訳が終わったこととなります。残りは、④で述べる文型に沿って並べるだけです。

名詞と動詞はすぐに理解するようになります。そして名詞を修飾している言葉は「形容詞」なのだ、動詞を修飾している言葉は「副詞」なのだ、

と修飾語と被修飾語の関係で理解させてゆきます。

教え方としては

「この言葉はどこにかかっている？」と問うだけです。

<例文>

彼はゆっくり歩く。

「この文の「ゆっくり」はどこにかかっている？」

と問えば、多くの子は「歩く」にかかっていると答えます。つまり、「ゆっくり」は副詞なのです。この文を英訳するには

He walks slowly. Slowly he walks.

主語と動詞を書いて、副詞を被修飾語にくっつけて書くか、文の先頭に置くだけなのです、

日本語のように形容動詞だとか連体詞だとか品詞をたくさん覚える必要はありません。活用も動詞以外はありません。小学生が注意して覚える内容は形容詞と副詞の違いだけなのです。

#### ④ 文型

これも英語学習には必須の知識です。学校では、品詞と文型はあまり詳しく学びませんが、英語を理解するにおいてむしろこの2つが最も重要なのです。

先に述べた通り、英語は文における言葉の並びが決まっている言語です。そして、その並び方は基本的に5つしかないのです。この5つの並び方以外の並びは、例外を除いて認められないのです。

したがって、ベーシックでは5つの文型を徹底的に教えます。様々なやり方を用いてゆきます。生徒が一番苦労するのは第4文型と第5文型で

すが、この違いを夏休み中かけて勉強します。しかし、講師は、ひと月み  
っちりやれば、小学生でも2つの違いを理解できることを経験上知ってい  
ます。ご安心ください。

## ⑤ 追記

ベーシックの英語の授業は上の4項目を基礎に進めて行きます。これに  
加えて、形容詞句といった言葉の理解や、分詞、不定詞といった言葉を教  
えてゆきますが、これらの理解も上の4項目の方針に当てはめれば、簡単  
に使いこなせるようになるのです。

例えば、分詞とは動詞が形容詞に変化したと考えてよい言葉なのですが、

<例文>

私は 走っている犬を 見た。

という文章において主語は「私は」動詞は「見た」であり、「走っている」  
は「犬」を修飾しているので形容詞なのだ、と理解させてゆきます。

これまで説明してきたルールに従って日本語の単語を並び変えるなら

私は	見た	走っている	犬を
(主語)	(述語＝動詞)	(形容詞)	(名詞＝被修飾語)

となり、あとはこれを英単語に置き換えるだけです。

不定詞の形容詞的用法と呼ばれるものも同じで、

<例文>

彼は電車で読むための本を買った。 という日本文は

彼は	買った	本を	電車で読むための
(主語)	(動詞)	(名詞＝被修飾語)	(形容詞句)

と並べて、あとは英単語に変換します。形容詞句の説明はこの文書ではしませんでした。これは2語以上の形容詞にあたり、被修飾語の後ろに置きます。

英語教育において「動詞が形容詞に変化する」といったような品詞の変化が一番難しいことの1つです。なぜなら、国語の教育においては「走っている」は動詞の連体活用と教えるからです。しかし、英語では、動詞とは述語の位置に1つだけ使われる言葉であり、それ以外は動詞ではない、と考えなくてはなりません。つまり、それ以外の言葉は動詞から他の言葉に変化しているのです。

よって「走っている」は動詞以外の言葉であり、名詞を修飾しているから「形容詞」(形容詞句)だ、となります。このように頭を英語のルールに切り替える訓練が一番大変であって、講師は英作文がこれに最も適していると考えています。

夏期講習の期間に英作文を書き続けるのは、生徒に上記の頭の切り替えを定着させるためです。ルールを記憶させるだけなら2週間もあればできるのですが、それを定着させ、それに従って書き、読むためにはやはり時間を必要とします。

生徒の皆さんには、夏期講習のあいだ、できるだけ週3日通っていただきたい。ぜひともこの「英語の文法に適応した考え方、習慣」を身につけていただきたいと考えています。

塾長

中村 聡